

2024年9月7日（土）交野古文化同好会歴史健康ウォーク 古墳時代交野の鉄器生産と王墓



写真 森遺跡の航空写真（1995年）



写真 森遺跡 1995 - 1次鍛冶炉



写真 交野東車塚古墳 鉄製甲冑

(本日の行程)

- ①河内磐船駅改札前・・・森遺跡概要
- ②古墳時代前期の区画溝（2013—2次地点）
- ③古墳時代前期の区画溝（2012—3次地点）
- ④古墳時代前期の竪穴建物および中期の竪穴建物（1991—3次地点）
- ⑤森遺跡西端の流路・中期の地上式炉（1990—2次、1989—1次地点）
- ⑥森遺跡北西端の建物・流路（1995—2次1、2調査区、1992—6次地点）
- ⑦古墳時代中期の地下式鍛冶炉（1995—2次3調査区）
- ⑧古墳時代中期の地上式鍛冶炉（2000—1次地点）
- ⑨古墳時代中期の地下式鍛冶炉（1997—5次地点）
- ⑩森遺跡北東端の流路・谷（1995—3次地点ほか）
- ⑪「船戸」地名
- ⑫交野車塚古墳群3～5号墳
- ⑬交野車塚古墳群2号墳
- ⑭交野車塚古墳群1号墳（東車塚古墳）
- ⑮大畑古墳、寺村遺跡
- ⑯未確認古墳か
- ⑰須弥寺
- ⑱森遺跡発見地（及び森遺跡南東端）
- ⑲古墳時代後期 倭韓折衷の鍛冶炉群（2012—3次地点ほか）



写真1 竪穴建物の復原例



写真2 掘立柱建物の復原例

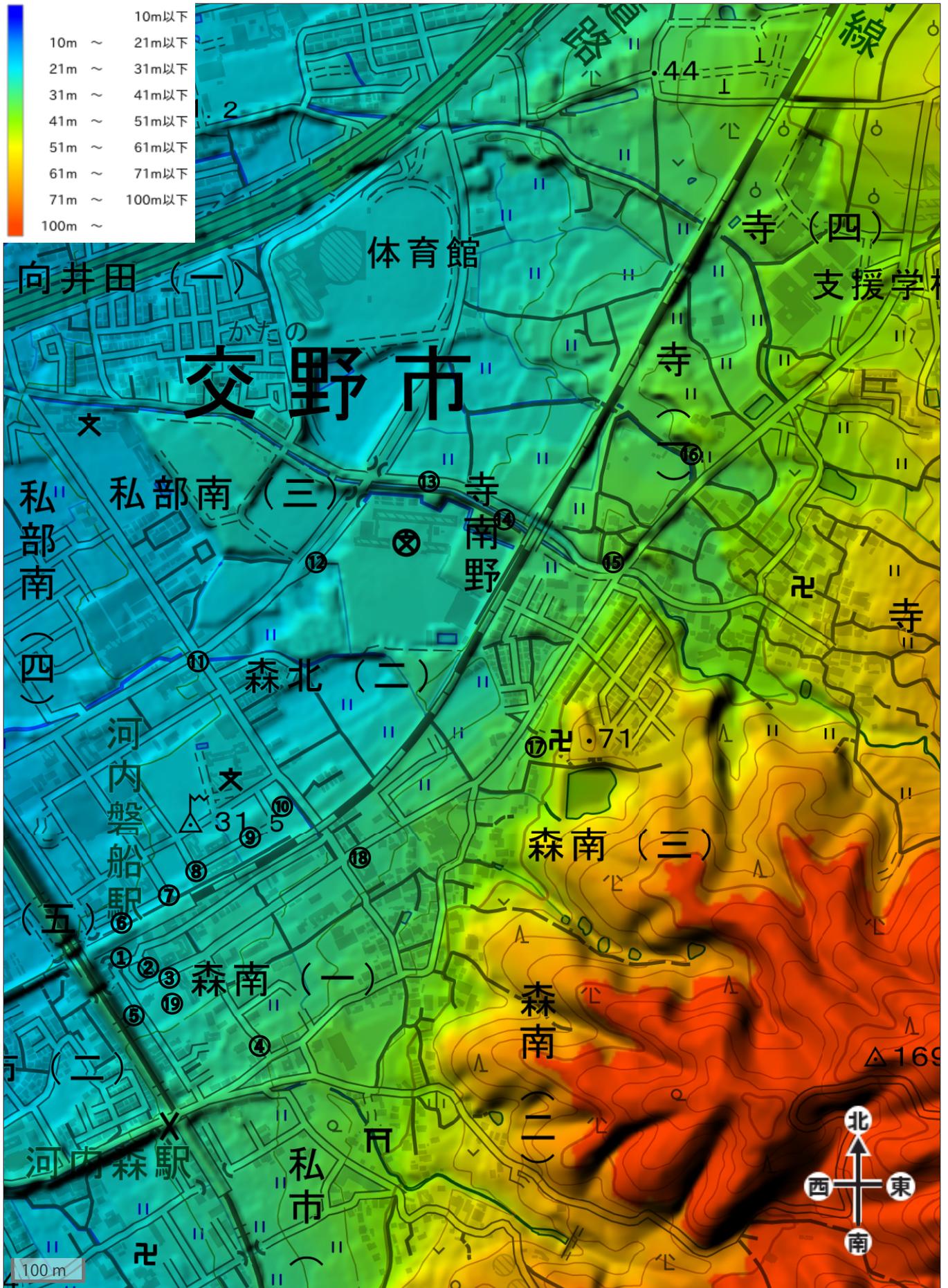


図1 森遺跡・交野車塚古墳群付近の色別標高図

森遺跡の調査史と概要

1956年に交野考古学会が、大門酒造北側にて弥生時代末から古墳時代初頭の土器を表面採集して発見した。交野町史編纂時は集落遺跡として位置づけられた(片山1963)。

1986年ごろからJR河内磐船駅、京阪河内森駅周辺の開発が進むのにもない、交野市教委により発掘調査が積み重ねられてきた(交野市教委1986他)。得られた主な調査成果は次のとおり。

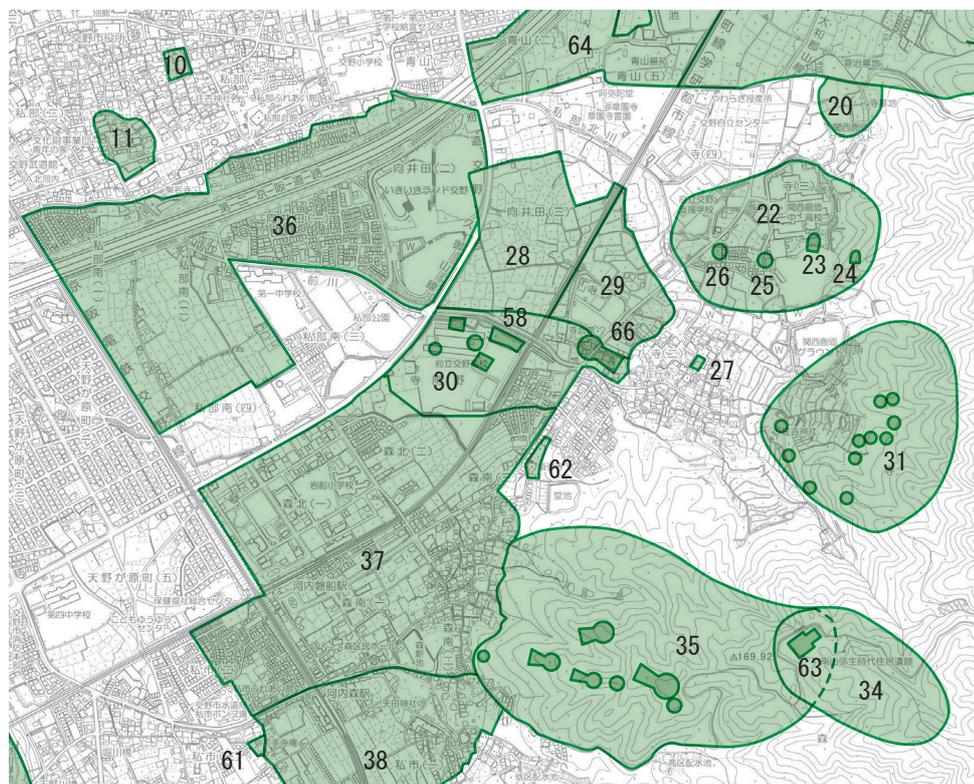
・古墳時代の集落生産遺跡

前期の森古墳群、中期の交野車塚古墳群の膝元で続いた集落生産遺跡。鍛冶炉・土製の送風管(羽口)・鉄滓が多くみつき、中期中頃から後期にかけて、鉄器生産を盛んに行っていたことがわかった。鍛冶を復元するための製鉄・鍛冶実験も市で行い当時の一連の鍛冶工程を行う専門的な鉄器生産地であることを明らかにしてきた(交野市教委2000他)。

→当時の列島内で重要な鍛冶生産地として位置づけられる(花田2002、池淵2004、村上2007ほか)。

・平安時代の荘園開発拠点

現行地割(天野川条里)の初現となる水路がめぐり、耕地開発が進む。当時の有力者階層が使用した緑釉陶器、篠簾産須恵器などの遺物が見つかる。石清水八幡宮荘園による開発拠点と考えられている。



- 10 北田家住宅
- 11 だがしろ遺跡
- 20 尾上遺跡
- 22 寺村北遺跡
- 23 大谷北窯跡
- 24 大谷窯跡
- 25 やぶ古墳
- 26 京の山古墳
- 27 山添家住宅
- 28 今井遺跡
- 29 寺村遺跡
- 30 交野車塚古墳群
- 31 寺古墳群
- 34 南山遺跡
- 36 私部南遺跡
- 37 森遺跡
- 38 天田神社遺跡
- 53 坊領遺跡
- 58 交野東車塚古墳
- 61 麿千手寺
- 62 須弥寺遺跡
- 63 鍋塚古墳
- 64 上私部遺跡
- 65 上の山遺跡
- 66 大畑古墳

図2 森遺跡と周辺の遺跡



写真3 森遺跡 1989 - 1次発掘調査風景



図3 森遺跡の発掘調査地点 (交野市教委 2018)

古墳時代前期の森遺跡

・「船戸」地名と流通拠点としての森遺跡

交野市史考古編では、同地名が森遺跡の北端に残ることから、森遺跡が弥生時代から古墳時代にかけて、天野川流域の港湾的な役割を果たす集落として発展したと推定された（水野 1992）。ただし、市史民俗編で同地名は「道祖神」を意味するものとみており、森遺跡の性格と関連付けてよいかは注意が必要。

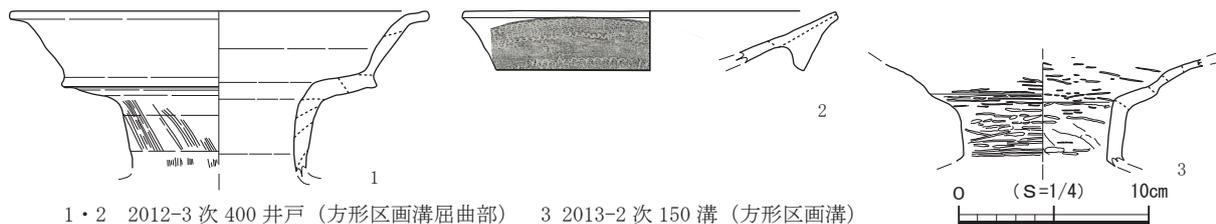
他方で、出土土師器に阿波地域など他地域からの搬入品が認められることから、当地域の流通拠点としての位置づけがされている（山田 2004）。

・森遺跡の中心施設（方形区画溝）

森遺跡 2012-3 次地点附近で古墳時代前期の溝（残存幅 1m 程度）が数か所で確認されており、50m 四方の方形区画をなしていたことがわかってきた。豪族居館かは未確認だが特殊な遺構であり、この時期の森遺跡の中心的な施設と見られる。溝や溝の角に配置された井戸では、当時の古墳祭祀にも用いられた二重口縁壺の破片がみつかったことも注目され、東方の山地の尾根に築かれた森古墳群との関連がうかがえる。



写真4 古墳時代前期の区画溝（森遺跡 2012-3 次、東から撮影）



1・2 2012-3 次 400 井戸（方形区画溝屈曲部） 3 2013-2 次 150 溝（方形区画溝）

図4 区画溝出土の二重口縁壺（交野市教委 2018）



図5 古墳時代前期の森遺跡 (交野市教委 2018)

古墳時代中期の森遺跡 鉄器生産の開始

中期中葉頃から遺跡内に2種類の鍛冶炉があらわれる。それぞれ次のような操業集団と推定される。

・倭系の鍛冶集団（1995—2次3調査区、1997—5次、2003—1次）

地下式炉（Aタイプ）または防湿構造地下式炉（Bタイプ）+複式羽口（ハの字状）→座って鍛冶をする。日本列島在来の鍛冶工人と考えられる。

・韓系の鍛冶集団（1989—1次、1991—2次、2000—1次）

地上式炉（Cタイプ）+単式羽口（ソケット状）→立って鍛冶をする。周辺で初期須恵器、韓式系土器が分布することからも渡来系の鍛冶集団とみられる。

→両者が混在しつつ分散しながら操業しているのが、この時期の森遺跡の特徴。また、既に専門的な鍛冶を行っていることわかっている。

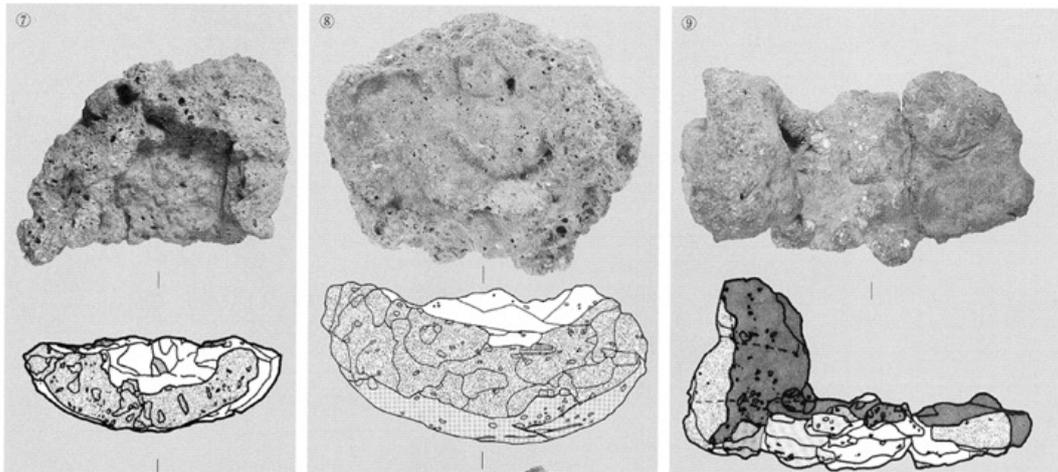


図7 森遺跡出土の鉄滓

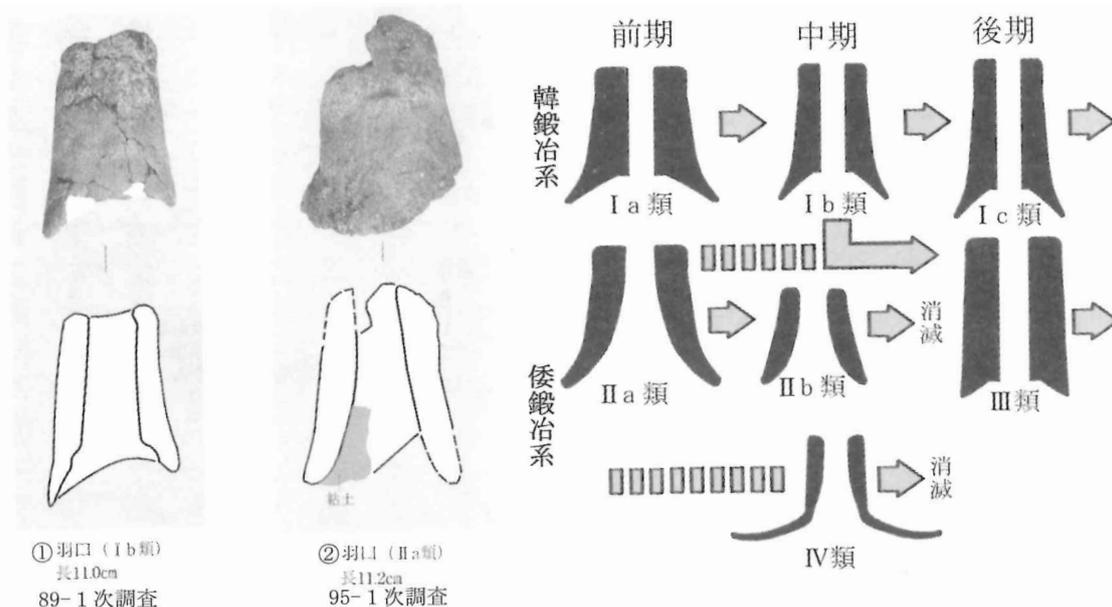


図8 森遺跡出土の羽口（真鍋 2011）

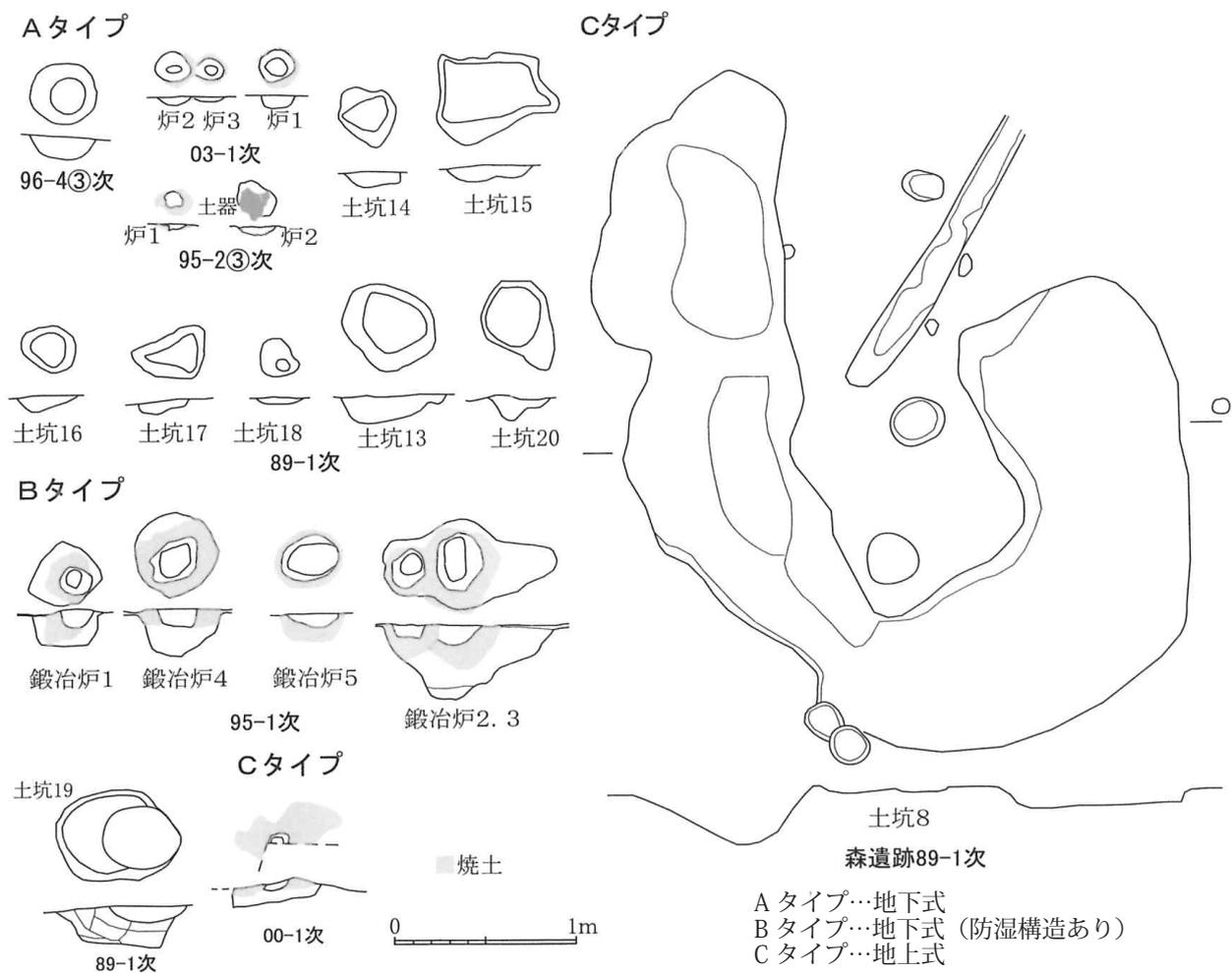
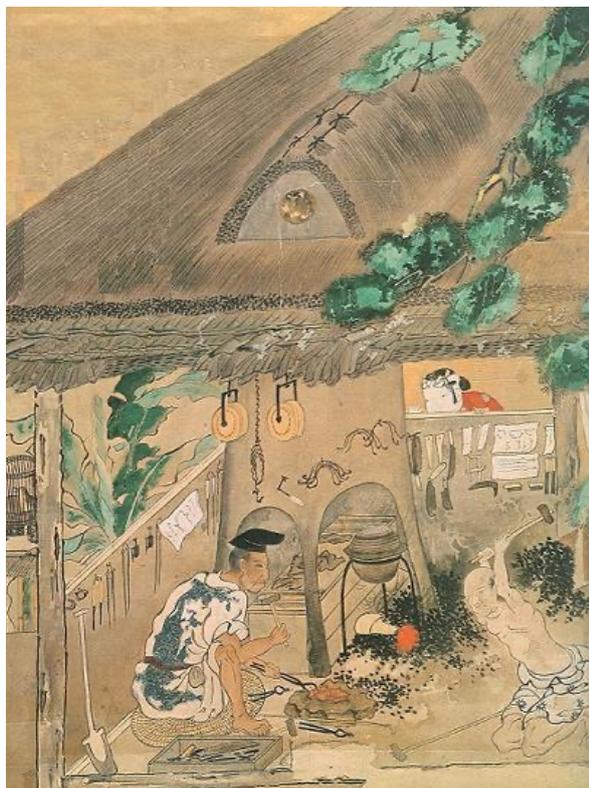


図9 森遺跡の鍛冶炉 (真鍋 2011)



参考図 地下式鍛冶炉 (倭系)



参考図 地上式鍛冶炉 (韓系)

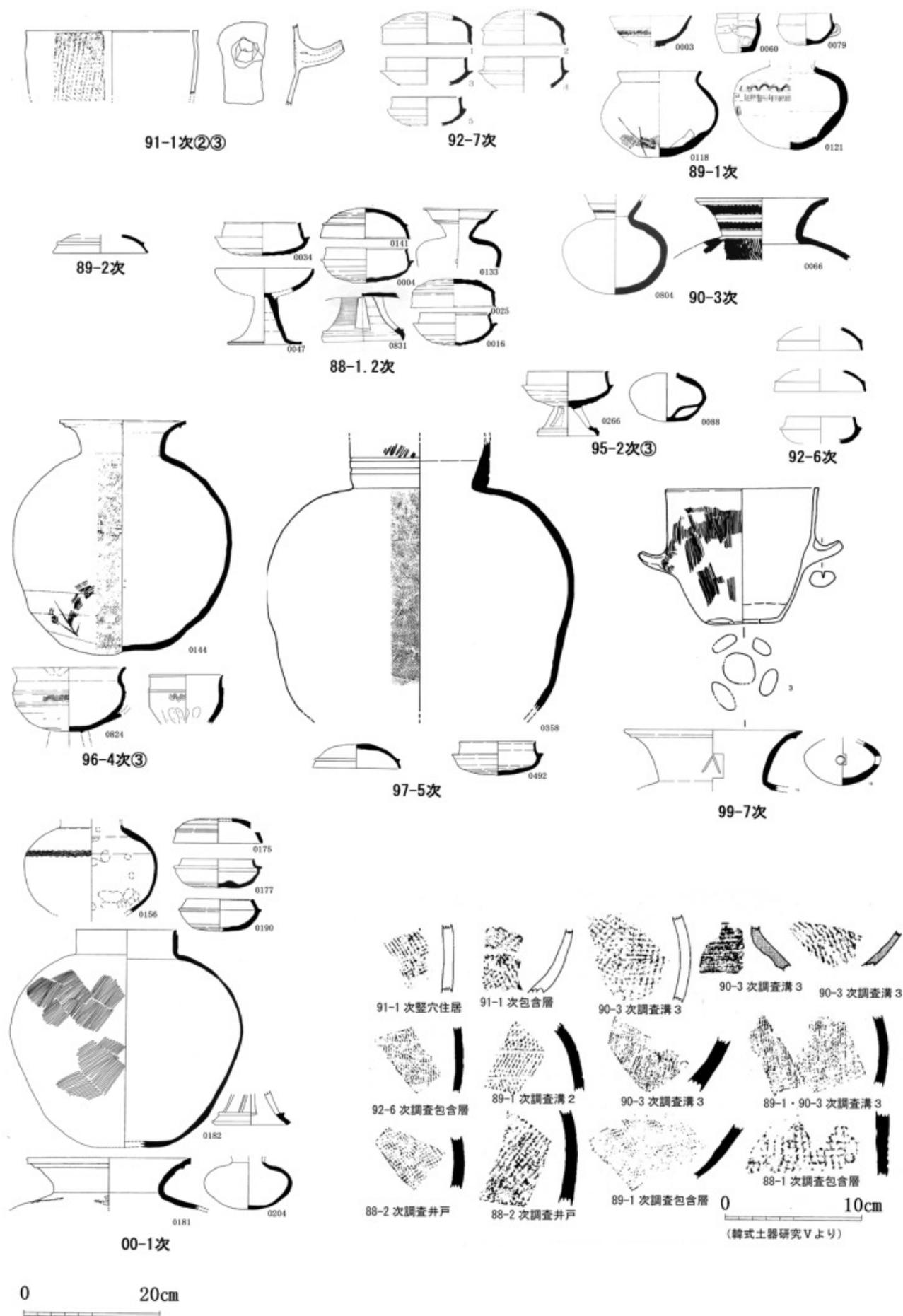


図10 森遺跡出土の韓式系土器と初期須恵器



图 11 1991 - 1 次 3 調査区 韓式系土器を出土した竪穴建物

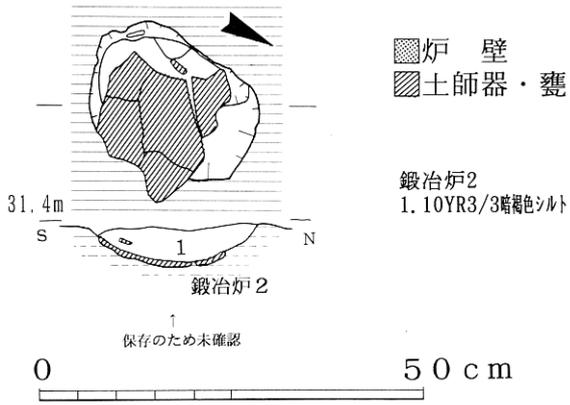


写真 1995-2次3調査区 地下式鍛冶炉



写真 2000-1次 地上式鍛冶炉



写真 1991-2次 地上式鍛冶炉



写真 1997-5次 地下式鍛冶炉



写真 1989-1次 地上式鍛冶炉



図 12 古墳時代中期の森遺跡 (交野市教委 2018)

古墳時代後期の森遺跡 鉄器生産の集約化

倭韓折衷の鍛冶集団（1989—1次、1995—1次、2012—3次）

6世紀代に入ると、技術上の画期と鍛冶工房の変化が認められる。

- ・地下式炉（Aタイプ、Bタイプ）+ソケット状羽口（韓系の送風管）に統合される。
- ・羽口痕跡から炉の高温化が確認できる。
- ・鉄滓出土量が中期段階より増加する。
- ・炉5基をL字状に配置し、周囲に区画溝を巡らせる工房があらわれる（森2012-3次）。
→飛鳥時代以後の都城の「官営鍛冶工房」の祖型となるものとみられる。
- ・集落の一角（現・河内磐船駅南ロータリー附近）に鍛冶工房が集中するようになる。
- ・集落内では、竪穴建物が消え先進的な掘立柱建物のみになる。

※古墳時代後期末になると、森遺跡で鍛冶は認められなくなる。

古代都城の鍛冶工房（官営工房）へ継承された可能性が指摘されている（真鍋 1997）。

※森遺跡で何を生産していたか

鉄器自体がほぼ見つからず確定は難しい。その中でも次のような手がかりが得られた。

- ・炉直径は比較的小さい（50 cm前後）→同時期の鍛冶生産地である大泉遺跡大型の鉄製品を生産することも可能だが、小型の鉄器生産に向く。
 - ・砥石は小型のものが多く、研磨対象物も小型のものが多かったとみられる（森 2023）。
 - ・一部出土した鉄塊等の分析により、銅が混じることが確認される。
- この時期、銅と鉄を合せて製作するものとしては馬具があり、森遺跡で馬具がリサイクルされていた可能性がある。また、馬具は比較的小型の部品を組み合わせる性格上、森遺跡の炉のサイズや、砥石サイズとも齟齬がなく生産されていた可能性も考えられる。

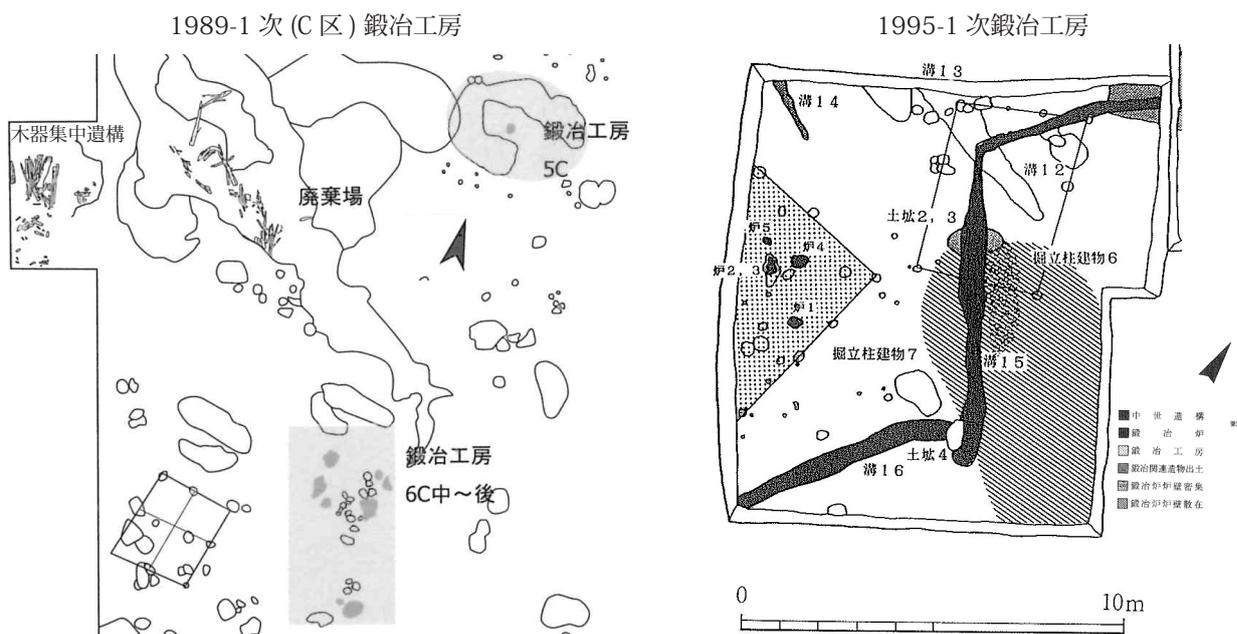


図13 古墳時代後期の森遺跡鍛冶工房（真鍋 2011 を一部改変）



図 14 古墳時代後期の森遺跡 (交野市教委 2018)



全景



写真 1989 - 1次 地下式鍛冶炉群



全景



写真 1995 - 1次 地下式鍛冶炉群

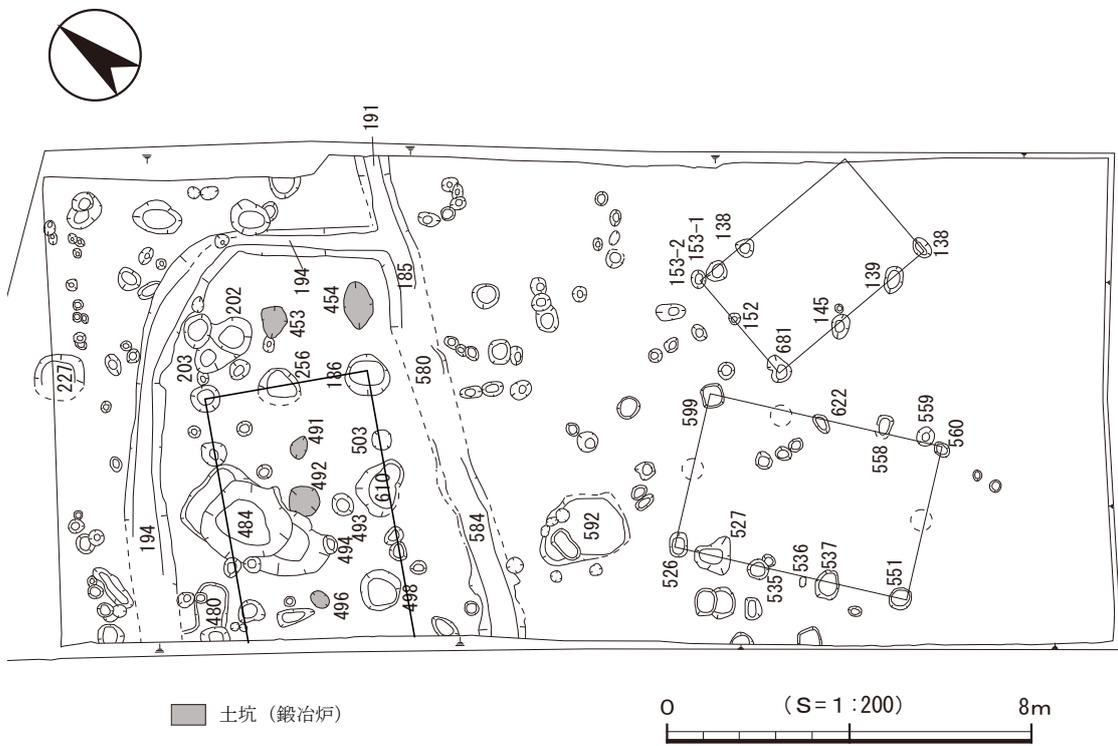


図 15 森遺跡 2012-3 次調査の鍛冶工房 (交野市教委 2018)



写真 森遺跡 2012-3 次調査の鍛冶工房 (交野市教委 2018)

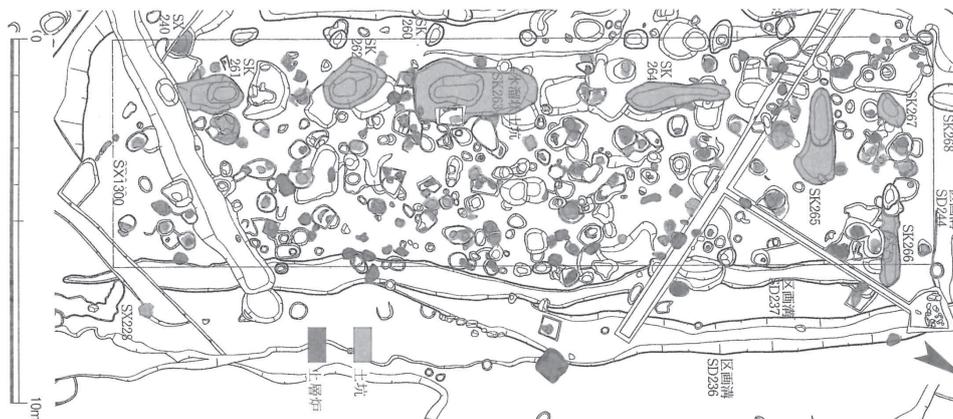


図 16 飛鳥池工房 SX1300 (小池 2015)

交野車塚古墳群 古墳時代中期交野の王墓

森遺跡の北東に位置する中期古墳群。府立交野高校建設に先立ち発掘調査が実施されたことをきっかけにして、現在までに1～6号墳が確認されてきた。周辺にも古墳が残っている可能性がある。1号墳である交野東車塚古墳が埋葬主体部まで調査され、同古墳と副葬品一式が大阪府指定文化財となっている。

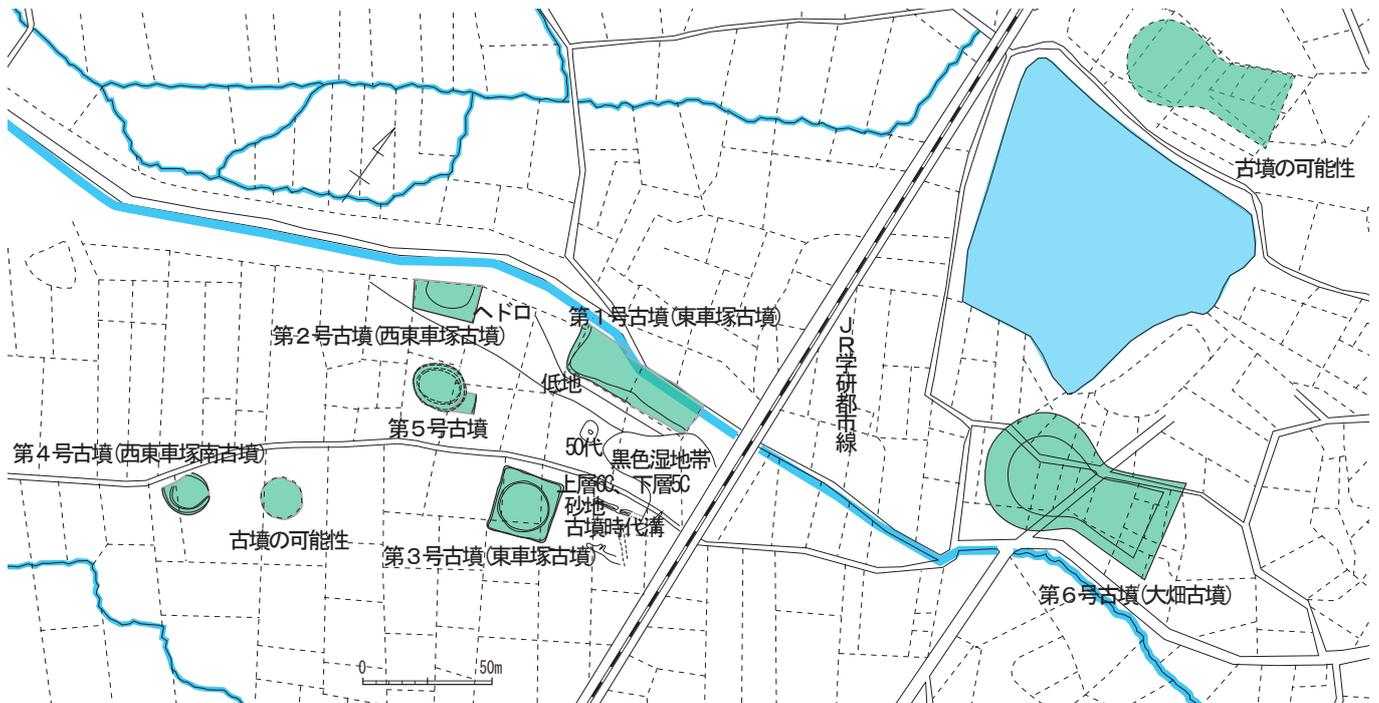


図 交野車塚古墳群平面図



写真 交野車塚古墳群航空写真

表 交野郡域の古墳編年

穂谷川	天野川						時期・年代		
	下流 左岸	下流 右岸	中流 左岸	中流 右岸	上流 左岸	上流 右岸	土師器	須恵器 (田辺)	埴輪 (川西) 一部改
						森古墳群 ■ 鍋塚 (67)	庄内・新		
		万年寺山 (?) ● 禁野車塚 (110)				● 1号・雷塚 (106) ● 2号・向山 (58) ● 3号・山神 (46) ● 4号 (50)	布留・古 300年		第Ⅰ期
● 牧野車塚 (107) ○ 赤塚山 (?) ○ 小倉東古墳群			○ 藤田山 (?) ○ 郡津丸山 (?) ○ 年代不明		○ 妙見山 (?)	■ 1号・東車塚 (65)	布留・中 300年		第Ⅱ期
						■ 3号・東車塚南 (22) ● 5号・V (17) ● 大畑 (85) ● 4号・西車塚南 (16)	布留・新 400年	TK73 TK216 ON46 TK208	第Ⅲ期
○ 日置山古墳群	■ 小倉東 E1 (14)	● 中振 1号 (16) ○ 姫塚 (40?)				○ 焼垣内 (?)		TK23	第Ⅳ期
		● 中振 2号 (15)				● 4号・西車塚南 (16)		TK47	第Ⅴ期
		● 禁野上野 (40)						500年	MT15
		● 白雉塚 (40)				倉治古墳群 ○ 寺古墳群 ○ 1号 (?) ■ 3号 (11)		TK10	古墳時代後期
	● 宇山2 (14)					○ 清水谷 (12)		TK43	
	● 宇山1 (13)							600年	TK209
九頭神麿寺		百濟寺跡	○ 中山 観音寺跡	○ 長宝寺跡		○ 須弥寺跡			古代寺院

井上2009をもとに一部改変して作成。墳形が不明瞭なものは点線で示した。括弧内の数字は墳長を示す。

・中小規模の円墳・方墳（第2～5号墳）

西車塚古墳（第2号古墳） 未調査。方墳（一辺27m、高さ3.4m）とみられる。中小規模墳の中では丘陵上に立地する点が注目される。

東車塚南古墳（第3号古墳） 低地部に立地。葺石をともなう円墳に方形の周溝が伴うことから「日の丸古墳」とも愛称される。極めて希な周溝であり、後世の攪乱の可能性も考えるべきか。円筒埴輪・朝顔形埴輪・壺形埴輪・盾形埴輪・蓋形埴輪・家形埴輪・短甲形埴輪・冪形埴輪が出土した。

なお、墳丘下層からは土壙墓とみられる遺構6基も検出されている。



写真 東車塚南古墳（第3号古墳）

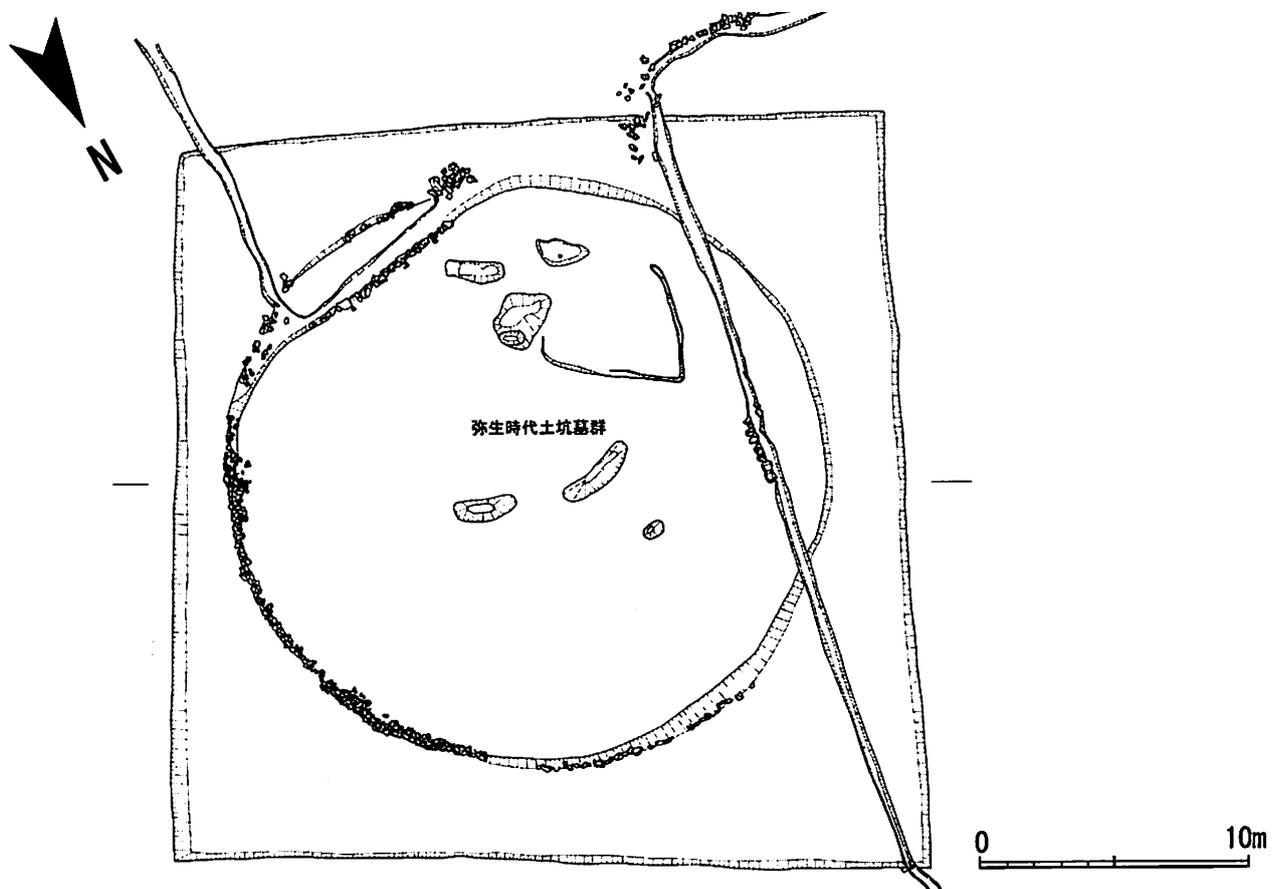


図 東車塚南古墳（第3号古墳）平面図



写真 東車塚南古墳 朝顔形埴輪



写真 東車塚南古墳 短甲形埴輪



写真 東車塚南古墳 家形埴輪



写真 東車塚南古墳 盾形埴輪



写真 東車塚南古墳 (第3号古墳) 囿形埴輪

西車塚南古墳（第4号古墳） 低地部に立地する円墳（直径16.5m）で、葺石は未確認。円筒埴輪・朝顔形埴輪・家形埴輪・動物形埴輪が出土。

第5号古墳 中小規模の円墳の中でも低地部に立地する。円墳（直径17m）で、葺石は確認されていない。円筒埴輪・朝顔形埴輪・動物形埴輪が出土。円筒・朝顔形埴輪は、須恵器の調整に類似するC種ヨコハケで仕上げられ、須恵質に焼成されている。須恵器工人の関与がうかがえる特異なもの。周溝内から奈良時代須恵器も検出されており、4号墳とともに、奈良時代には耕地開発により削平が進んでいた可能性が高い。



写真 西車塚南古墳（第4号古墳）



写真 第5号古墳



写真 第5号古墳朝顔形埴輪



写真 第5号古墳円筒埴輪



写真 西車塚南古墳(第4号)円筒埴輪



写真 交野車塚古墳群出土 須恵器はそう



写真 交野車塚古墳群出土 奈良時代須恵器

・東車塚古墳（第1号古墳）

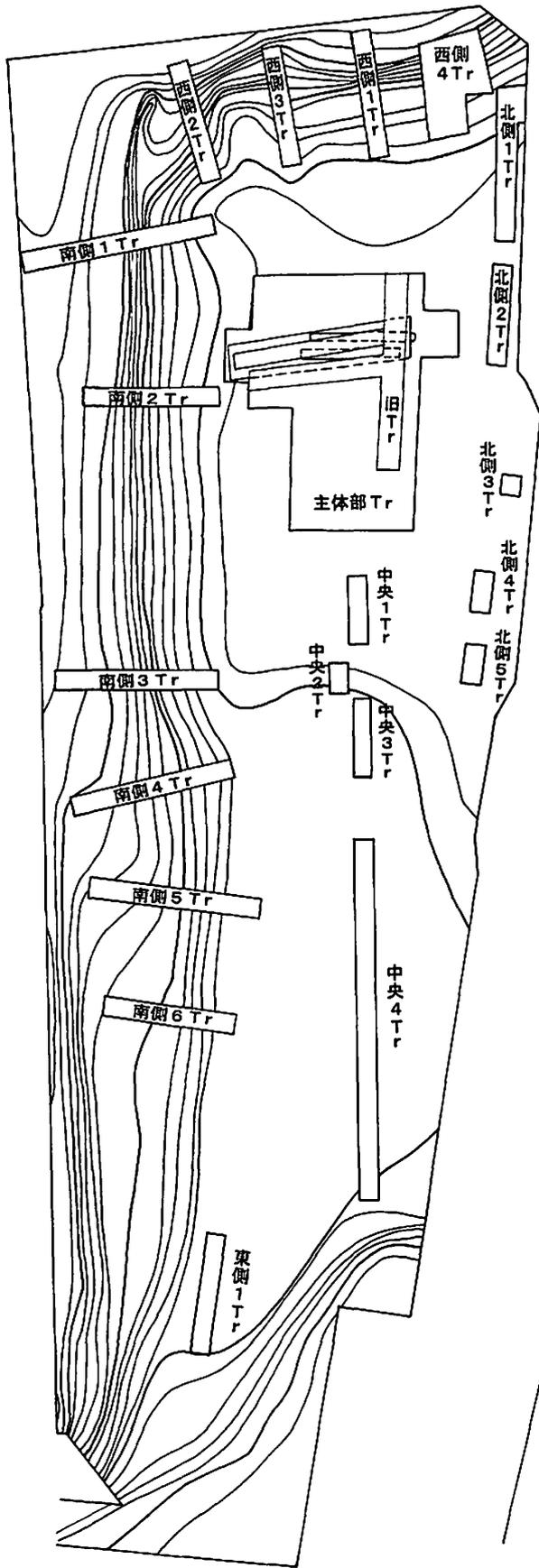
前期末中期初頭の前方後方墳（墳長 65m）。ただし、近接する南川や、農地による攪乱が大きく、墳形を再検討する余地がある。

墳丘調査では、葺石が確認されている。大型品・小型品に分かれる円筒埴輪のほか、壺形埴輪・朝顔形埴輪・蓋形埴輪・盾形埴輪・家形埴輪がみつまっている。

埋葬施設の調査では、8m を超える長大な割竹形木棺^{わりたけがたもっかん}の痕跡が確認された。棺底で副葬品の分布や、ベンガラ^{ベンガラ}の塗布状況 2 人の被葬者（中央部と北側）が確認されている。



写真 東車塚古墳（第1号古墳） 全景写真



前川

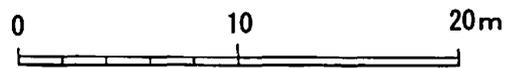


図 東車塚古墳 (第1号古墳) 平面図

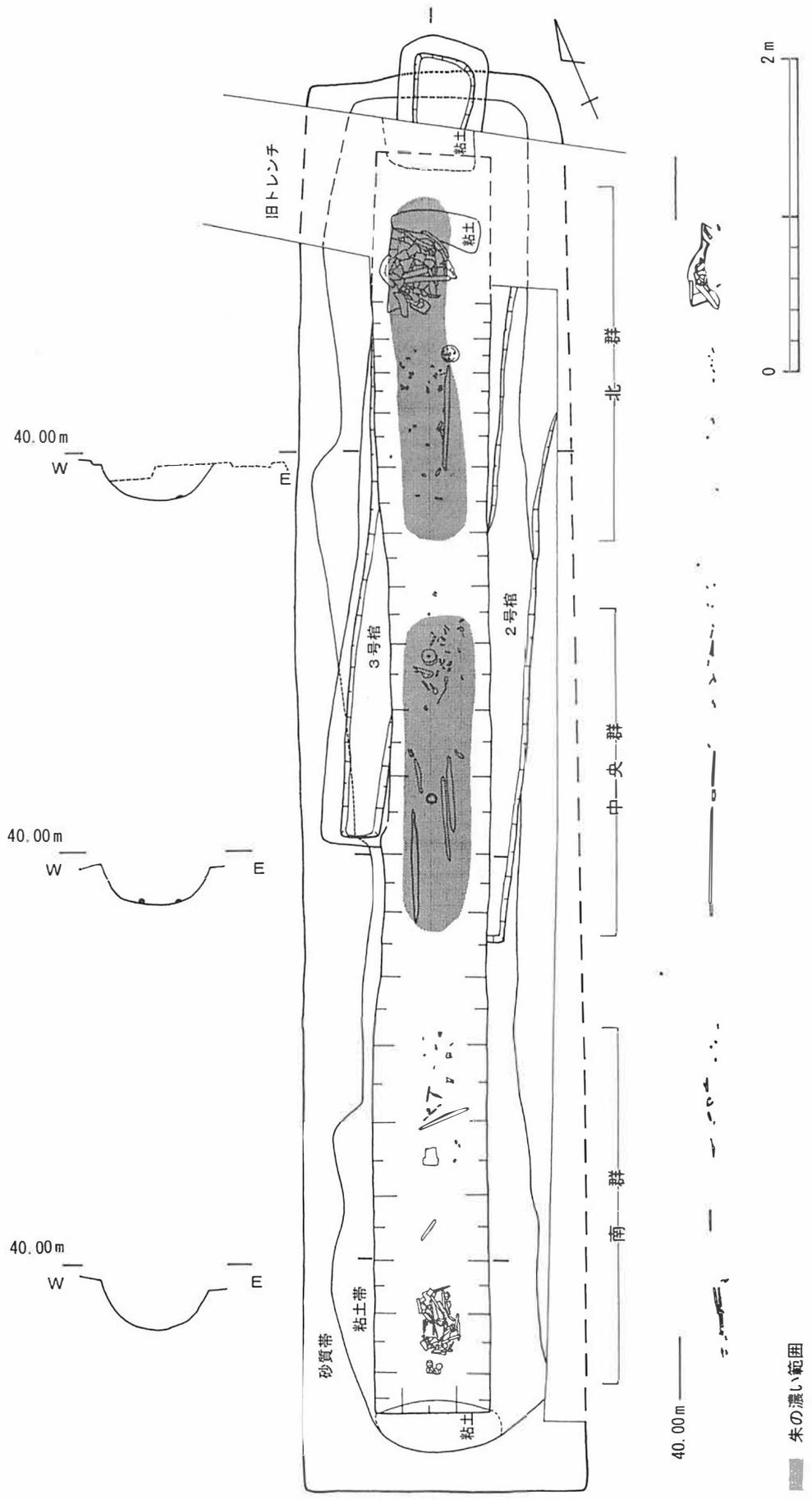


図 東車塚古墳（第1号古墳）木棺平面図



写真 東車塚古墳（第1号古墳）木棺 完掘写真

表 東車塚古墳（第1号古墳）副葬品

副葬品 品種	北群 (男性被葬者と推定)	中央部 (女性被葬者と推定)	南群A	南群B (木箱か)
青銅鏡	四乳四獣鏡1	四獣鏡1 盤竜鏡1		
装身具	翡翠製勾玉2 棗玉4 碧玉製管玉48	碧玉製勾玉2 水晶製棗玉2 碧玉・緑色凝灰岩製管玉25 白玉 碧玉製腕輪形石製品（石釧）1	琴柱形石製品5 結晶片岩製管玉22 白玉2000以上	
武器	鉄刀1 鉄剣1 短剣1	鉄刀2 鉄剣2 短刀1	鉄剣1	鉄剣1
武具	三角板革綴衝角付冑1 三角板革綴襟付短甲1 青銅製筒形銅器1 青銅製巴形銅器3			
農工具	刀子1	刀子1 鑿か1	蔵手刀子5 刀子1 有肩鉄斧1 鑿1	鎌22 手鎌9 鍬・鋤先8 鑿・鋪29点 錐8 斧16 鋸2 刀子14 蔵手刀子1
その他鉄器		棒状鉄製品1 鑿子状鉄製品3 簪状鉄製品1		

北側の被葬者 当時最新の帯金式甲冑（鈴木 2009）や鉄刀を副葬し、武装の国産化がなされつつあった時期の、最新鋭の武器・武具を保有する王の姿がうかがえる。また、甲冑の北側では、同時期の朝鮮半島での出土例が多い巴形銅器（盾などの飾り金具）と筒形銅器（杖、槍などの柄の下部に装着されたとみられる）も持つことから、対外的な活動に携わっていたと推定される（井上 2021）。



写真 東車塚古墳（第1号古墳） 副葬品 北群



写真 東車塚古墳（第1号古墳） 三角板革綴短甲



写真 東車塚古墳 四乳四獣鏡

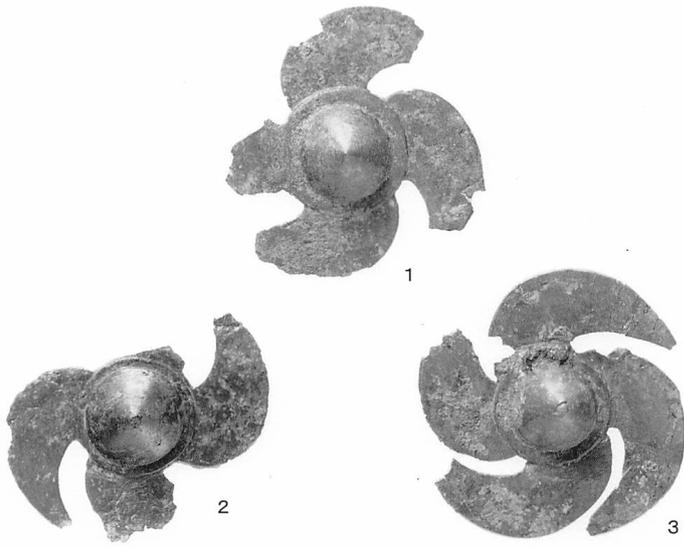


写真 東車塚古墳 巴形銅器



写真 東車塚古墳 筒形銅器



写真 東車塚古墳 鉄剣・鉄刀

中央部の被葬者 腕輪形石製品の配置や、鉄鏃を副葬されていない点から女性首長と推定される（清家 2010）。初期の日本列島製とみられる鉄刀（齋藤 2018）を含む複数の刀剣類を副葬する（棺内副葬か）。鑷子（毛抜き）状鉄器は、同時期の朝鮮半島（特に金官伽耶地域）にみられる渡来系の遺物とされる（井上 2021）。特殊な簪状鉄器や棒状鉄器なども渡来系のものか。四獣鏡、盤竜鏡のほか、多量の玉類も副葬される。

→森遺跡における鉄器生産開始よりかなり早い段階で埋葬されており、直接的に鉄器生産開始に関与していない可能性がたかい。他方で、交野市域で渡来系文物を豊富に副葬した最初期の王墓であり、両被葬者の活動は後の森遺跡における鉄器生産導入の遠因になったとみられる。



写真 東車塚古墳（第1号古墳） 副葬品 中央群



写真 東車塚古墳 盤龍鏡



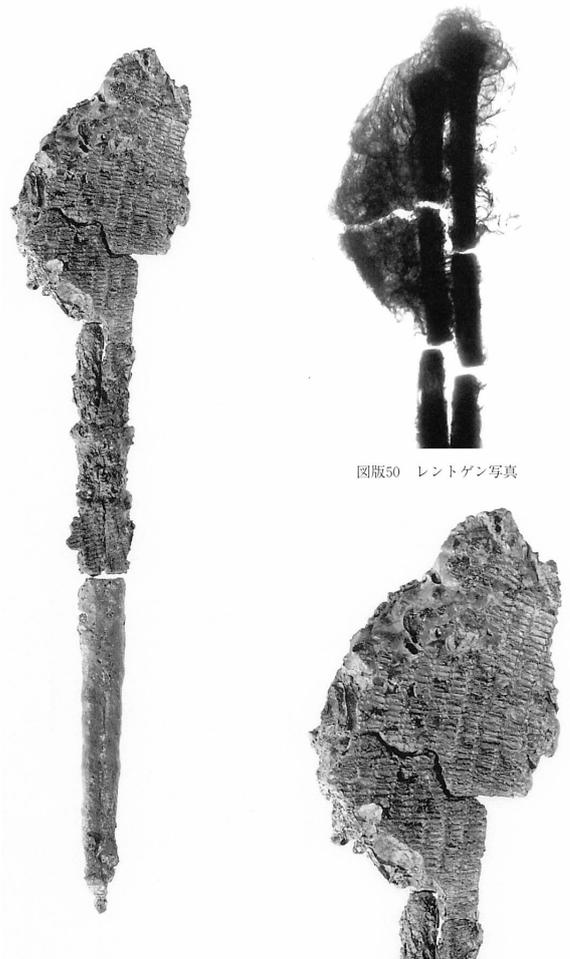
写真 東車塚古墳 四獣鏡



上から

横から

写真 東車塚古墳 腕輪形石製品



図版50 レントゲン写真

写真 東車塚古墳 棒状鉄器



写真 東車塚古墳 玉類・装飾品

・大畑古墳（第6号古墳）

- ・古墳時代中期後半（井上 2007）の北河内最大級の前方後円墳（墳長 85m）。中期中葉頃とする見方もある（和田 2011）。いずれにしても交野市域では今のところ、大畑古墳以後の前方後円墳は確認されていない。
- ・円筒埴輪、葺石を確認。埋葬施設等の詳細は不明。
- ・後円部調査にて鉄滓出土（供献されたものか）。

→詳細不明ながらも、森遺跡における鉄器生産導入に関与した王の墓と考えられる。古墳の築造時期が森遺跡の鉄器生産開始期に近いことから傍証される。

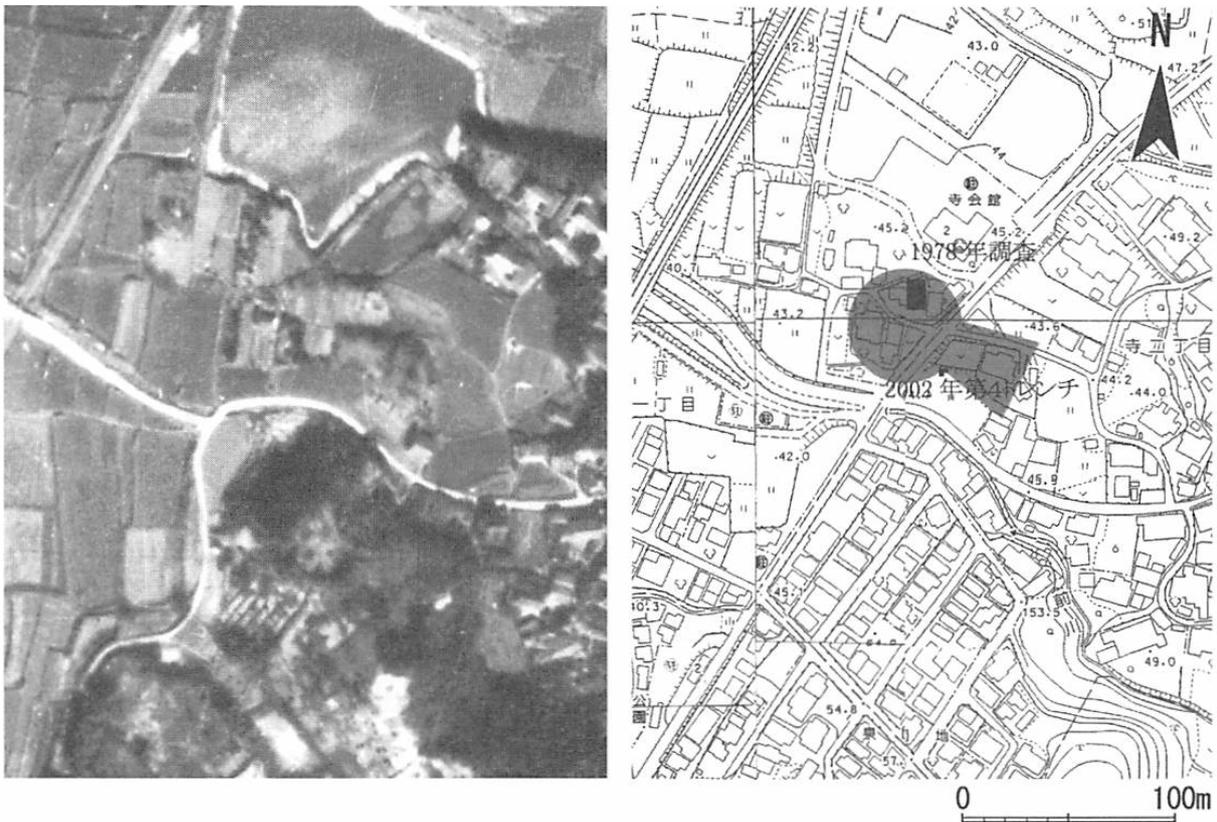
・寺村遺跡竪穴建物

大畑古墳が立地する丘陵上で弥生時代後期から古墳時代前期頃の竪穴建物3基が確認されている。この竪穴建物が立地する丘陵の周囲はかなりの高低差があり、防御機能をそなえる環濠の役割を果たしたとみられる。

・未確認前方後円墳

交野車塚古墳群の北側には、未調査ながら古墳（特に前方後円墳）の可能性の残る地形が認められる。

この他にも詳細な調査はされておらず、年代等不詳の京の山古墳、やぶ古墳などの古墳が数基確認されている。



（古墳位置 左：1945年米軍撮影、右：現在）

図 大畑古墳（第6号古墳） 平面図

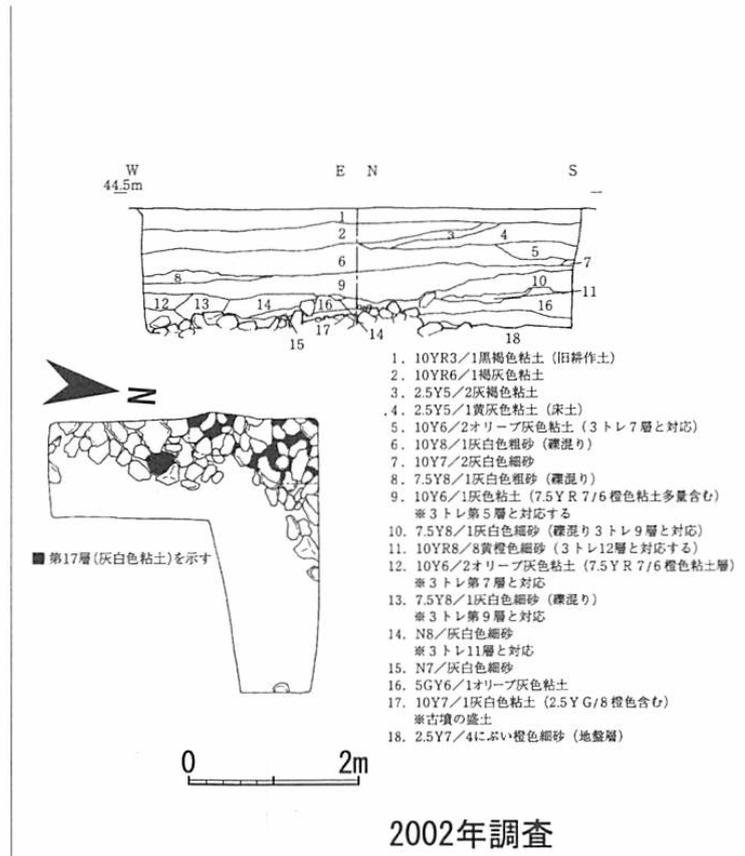
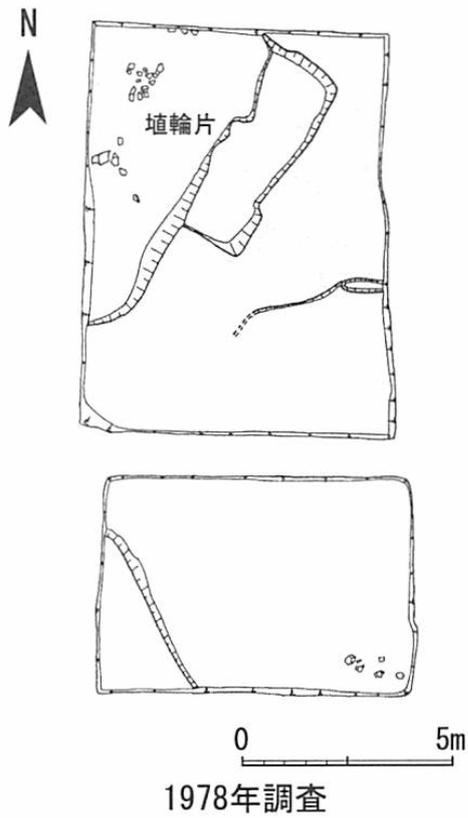


図 大畑古墳 (第6号古墳) 調査区平面図



写真 大畑古墳 (第6号古墳) 1978年 調査区

須弥寺遺跡

- ・現在の須弥寺下層で確認された古代寺院遺跡。奈良時代の瓦群、遺構が確認されている。
- ・さらに下層で溝が検出され、飛鳥時代の土器がみつまっている。森遺跡周辺ではこの頃には集落・鍛冶生産ともに活動が認められなくなっており、地域の拠点がこの付近に移った可能性がある。
- ・発掘調査で少量だが埴輪片がみつまっている。飛鳥時代の遺構群や、奈良時代の寺院の造営にあたっては、丘陵斜面を雛段状に切土造成して平坦面を確保したと推測されており、この際に古墳が破壊された可能性がある。
- ・その後の須弥寺については、6月開催の歴史健康ウォーク資料をご参照ください。

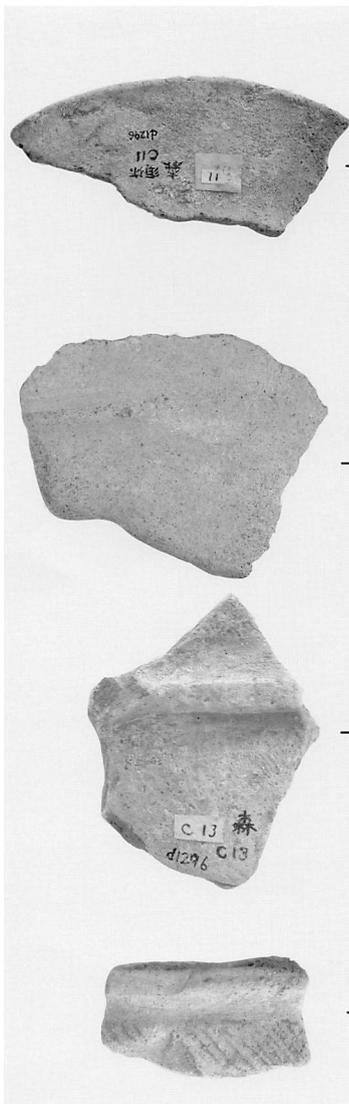


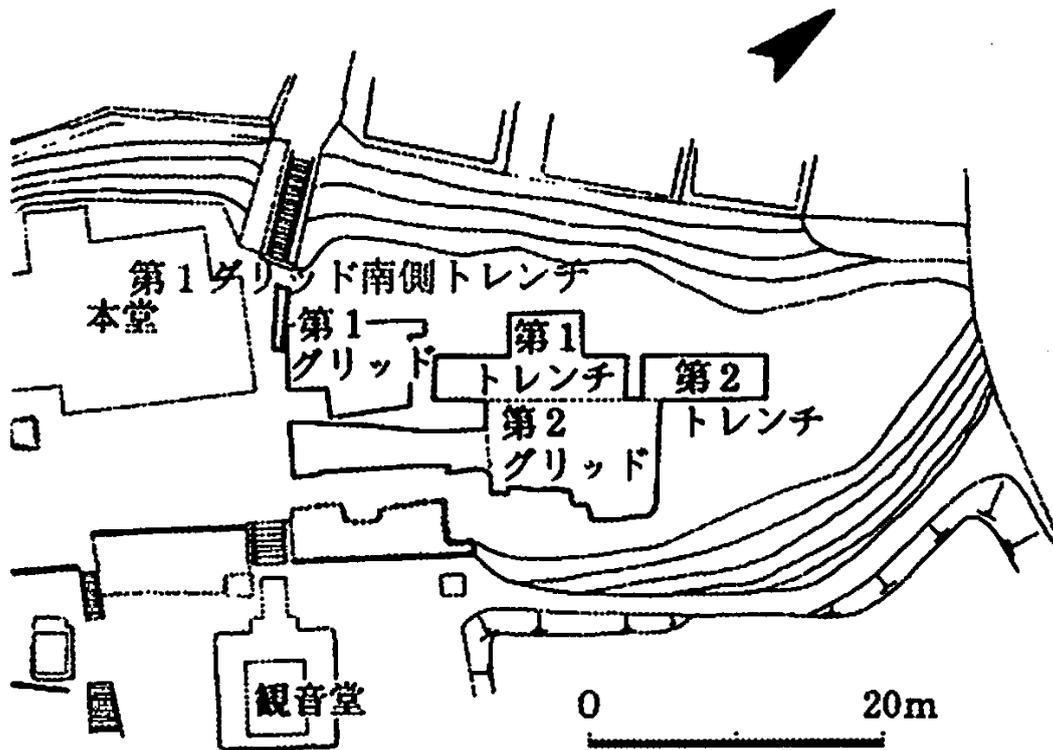
写真 須弥寺採集埴輪



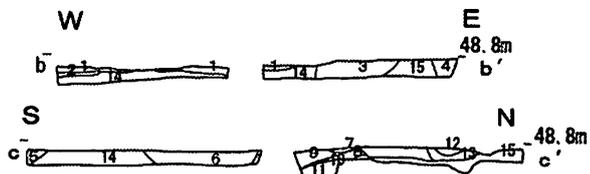
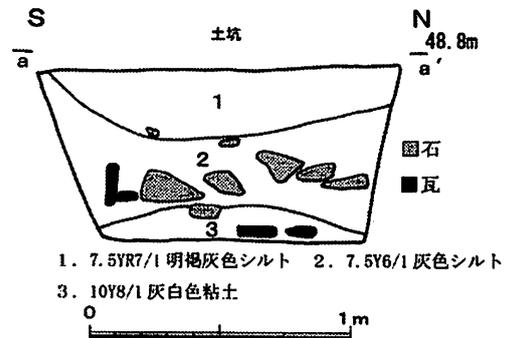
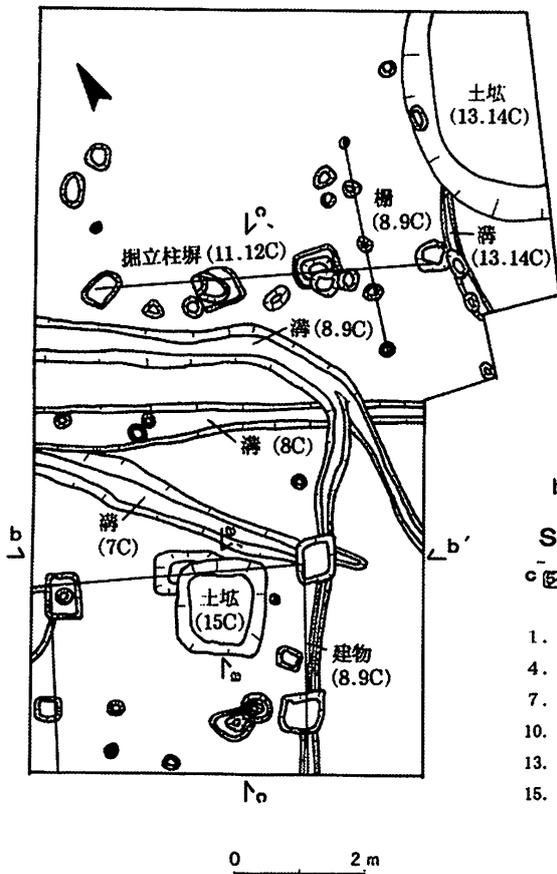
写真 須弥寺遺跡 飛鳥時代須恵器



写真 須弥寺遺跡 奈良時代瓦



第2グリッド平面図



1. 10YR7/1 灰白色シルト
2. 10YR8/4 浅黄褐色シルト
3. 10YR7/1 灰白
4. 10YR7/2 にぶい黄褐色粘土
5. 7.5YR6/8 橙色粘土
6. 7.5YR6/8 橙色
7. 10YR7/1 灰白色シルト
8. 2.5Y7/3 浅黄色シルト
9. 2.5Y7/3 浅黄色
10. 2.5Y6/1 黄灰色シルト
11. 7.5YR 橙色粘土
12. 5Y7/6 黄色粘土
13. 10YR6/3 にぶい黄褐色シルト
14. 10YR7/3 にぶい黄褐色シルト
15. 10YR7/1 灰白色シルト

図 須弥寺遺跡 調査平面図